

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-162692

(43)公開日 平成5年(1993)6月29日

(51)Int.CL⁵
B 63 H 21/26識別記号 序内整理番号
F 9085-3D

F I

技術表示箇所

審査請求 本請求 請求項の数2(全4頁)

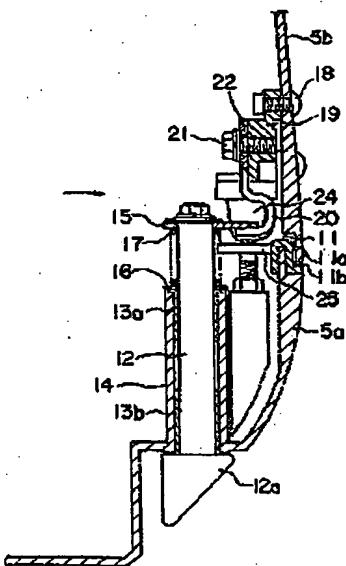
(21)出願番号 特願平3-330625	(71)出願人 000002082 スズキ株式会社 静岡県浜松市高塚町300番地
(22)出願日 平成3年(1991)12月13日	(72)発明者 大庭圭介 静岡県浜松市高塚町300番地 スズキ株式 会社内
	(74)代理人 弁理士 佐藤一雄 (外3名)

(54)【発明の名称】 船外機のカウリング

(57)【要約】

【目的】 トップカウルを簡単に、軽く、薄く作ることができるフラッシュサーフエスとすることができる、良好なシール性を得ることができるようとした船外機のカウリングを得ること。

【構成】 ボトムカウルにトップカウルを装着してエンジンを覆う船外機のカウリングにおいて、ボトムカウル5aの上端面内周側にシールラバー装着用の係合片10を上方に突設するとともに、外側面にトップカウル5bの下部内周面との径方向シールを行なう第1のリップ11aを設け、下部外周にトップカウルの下端面との間のシールを行なう高さ方向シール用の第2のリップ11bを設けたシールラバー11を、上記係合片10にその係合片を被覆するように装着した。



(2)

特開平5-162692

1

【特許請求の範囲】

【請求項1】ボトムカウルにトップカウルを装着してエンジンを覆う船外機のカウリングにおいて、ボトムカウルの上端面内周側にシールラバー装着用の係合片を上方に突設するとともに、外側面にトップカウルの下部内周面との径方向シールを行なう第1のリップを設け、下部外周にトップカウルの下端面との間のシールを行なう高さ方向シール用の第2のリップを設けたシールラバーを、上記係合片にその係合片を被覆するように装着することを特徴とする、船外機のカウリング。

【請求項2】ボトムカウル内壁に軸支されボトムカウル内に突入されたレバー軸の頂端部にそのレバー軸とともに回動するロックプレートを装着するとともに、ボトムカウル内に高さ方向調節自在な受部材を設け、トップカウル内壁には、そのトップカウルをボトムカウルに装着したとき、前記ロックプレートを係合し得るフックを上下調節可能に装着するとともに、上記受部材に当接する突起部を設けたことを特徴とする、請求項1記載の船外機のカウリング。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は船外機のカウリング、特にボトムカウルとトップカウル間のシール装置に関する。

【0002】

【従来の技術】図4は一般的な船外機を示す側面図であって、船外機1のドライブシャフトハウジング2の下部に、プロペラ3を水平に支持するとともにそのプロペラ3を回転駆動する歯直線帶を内蔵したギアケーシング4が連結されており、上記ドライブシャフトハウジング2の上部にエンジンを内蔵するカウリング5が設けられ、ドライブシャフトハウジング2に設けられている取付金具6によって図示しない船体に装着し得るようにしてある。

【0003】図5は上記カウリング5の縦断面図であって、そのカウリング5はボトムカウル5aとトップカウル5bとから構成されており、ボトムカウル5aの上端縁部にシールラバー7を介してトップカウル5bを装着するようにしてある。

【0004】【発明が解決しようとする課題】ところで、上記シールラバー7は従来図6に示すようにトップカウル5bの下端縁に装着されている。したがって、シールを確実にするためにはシールラバー取付部の形状を確実にする必要があり、また当然当該部の内厚も厚くする必要があり、トップカウルの軽量化に問題があるとともに、その製法にも制限が生じ、また外観上も余り好ましくない形状となる等の問題がある。

【0005】そこで、図7に示すようにボトムカウル5aの上端縁にシールラバー7を装着することも提案され

2

ている。しかしこの場合にはトップカウル5bの下端縁部を外周方向に膨らませてシールラバー7の外周を覆うようにする必要があり、カウリングの外周に突条が出来、カウリングの表面に凹凸がないわゆるフラッシュサーフェスの展望に反することになって、デザイン的に好ましくない等の問題がある。

【0006】本発明はこのような点に鑑み、トップカウルを簡単に、薄く、軽く作ることができてフラッシュサーフェスとすることができ、良好なシール性を得ることができるようにした船外機のカウリングを得ることを目的とする。

【0007】

【課題を解決するための手段】本発明は、ボトムカウルにトップカウルを装着してエンジンを覆う船外機のカウリングにおいて、ボトムカウルの上端面内周側にシールラバー装着用の係合片を上方に突設するとともに、外側面にトップカウルの下部内周面との径方向シールを行なう第1のリップを設け、下部外周にトップカウルの下端面との間のシールを行なう高さ方向シール用の第2のリップを設けたシールラバーを、上記係合片にその係合片を被覆するように装着したことを特徴とする。

【0008】また第2の発明はボトムカウル内壁に軸支されボトムカウル内に突入されたレバー軸の頂端部にそのレバー軸とともに回動するロックプレートを装着するとともに、ボトムカウル内に高さ方向調節自在な受部材を設け、トップカウル内壁には、そのトップカウルをボトムカウルに装着したとき、前記ロックプレートを係合し得るフックを上下調節可能に装着するとともに、上記受部材に当接する突起部を設けたことを特徴とする。

【0009】

【作用】ボトムカウルの上端面内周側に突設された係合片にシールカバーを装着し、そのシールカバーの外周面及び下部外周に設けたリップによってトップカウルとの間のシールを行なうので、トップカウルの肉厚を必要以上に厚くする必要がなく、薄く、軽量にでき、カウリングのフラッシュサーフェス化を図ることができる。また、トップカウルのボトムカウルに対する高さ方向の隙間調整は、ボトムカウルに設けられた受部材とトップカウルに設けられた突起部とによって、ロックプレートとフックとの係合とは別に行なうので、良好なシール性を得ることができる。

【0010】

【実施例】以下、図1乃至図3を参照して本発明の実施例について説明する。

【0011】図1及び図2において、ボトムカウル5aの上端面にはその内周側に上方に突出するシールラバー装着用の係合片10が全周にわたって突設されており、その係合片10にシールラバー11が係合装着されている。上記シールラバー11は、図2に示すように、係合片10にその上方から被覆係合し得るように断面逆U字

(4)

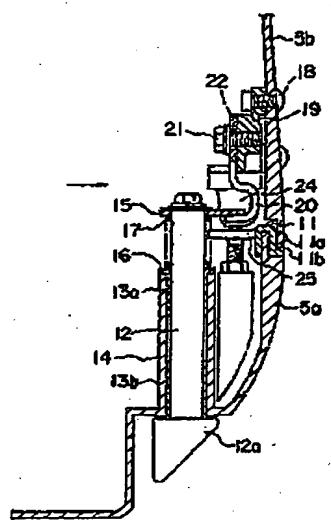
特開平5-162692

6

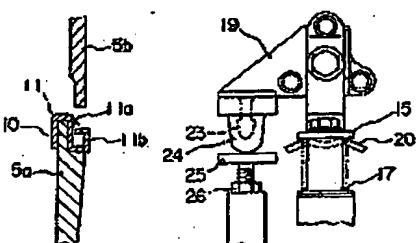
20 フック
23 突起
24 クッションゴム

* 25 受部材
26 ロックナット
*

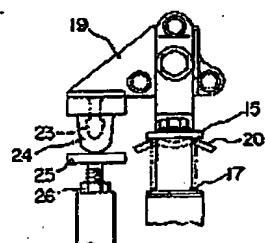
【図1】



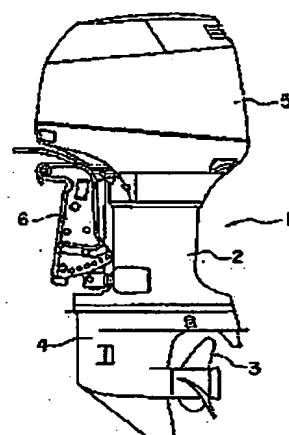
【図2】



【図3】



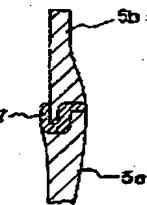
【図4】



【図7】



【図6】



【図5】

